☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

報道で見る氷上西高　２０１９

丹波新聞　令和元年１１月１４日（木）

1749人秋の丹波路疾走

青垣でもみじマラソン

「第42回兵庫・丹波もみじの里ハーフマラソン大会」（同実行委員会、丹波市主催）が10日、グリーンベル青垣を発着点とする遠阪川リバーサイドコースであり、ランナー1749人が秋晴れの下、山里が色づき始めた丹波路を駆け抜けた。（太治庄三）

ハーフに1067人、5キロに371人、ジョギング（2・6キロ）に311人が出場した。

ランナーたちは、沿道からの声援を受けながら力走。ゴールすると、先に走り終えた仲間から「お疲れさーん」の声が飛び、家族や友人からの「お帰りー」の温かな声に迎えられていた。

一斉にスタートを切るジョギングの部の参加者たち＝青垣町田井縄で

ランニング用サンダル「ワラーチ」を履いてハーフを走り、女子45―49歳の部で2位、総合5位に輝いた高見美江さん（48）＝丹波市、1時間38分01秒＝は10回目の出場。「また自己ベストを更新できた。今年は転機の年。9月には丹後ウルトラマラソン（100キロ）で18位、村岡の88キロマラソンで5位など、いろんなレースに挑戦している。来年はこれらすべてで優勝を狙いたい」と気合を入れていた。

20分09秒を記録し、男子5キロ35―39歳の部で優勝した安達尚人さん（39）＝青垣町市原＝は、「3、4年前から出場しているが、そのたびに2分ずつタイムを縮められている」とにっこり。

親子そろって1位に輝いたのは、川口伸樹さん（47）と、息子の理駈君（13）＝氷上町成松＝。伸樹さんは男子5キロ45―49歳の部で17分53秒、理駈君は中学生5キロ男子の部で18分04秒をマークし、各部で優勝を果たした。伸樹さんは「10回出場しているが2、3年前から記録が落ち始めた。近いうちに息子に抜かれると思うが、まだまだ負けたくない」と笑顔を見せ、理駈君は「来年は5キロを16分台で走る」と力を込めた。

ジョギングの部では、丹波ジュニアランニングクラブに所属する射場果椰人君（10）＝柏原町大新屋＝が9分59秒でゴールし連覇。「昨年よりもペースを落とさずに走れた。来年も参加して3連覇を狙う」と喜んでいた。

《　上位入賞者　》

	部門順位	名　前	住所	記　録
5キロ男子総合	19位	上山　亮弥	丹波市	19：26
5キロ女子総合	7位	川岸　天宮	丹波市	23：54
	8位	西村　更紗	丹波市	24：24
	19位	秋山　絢音	丹波市	27：25
	21位	土田　怜奈	丹波市	27：40
	28位	荻野　未夕	丹波市	28：25